

衣川地区振興会だより

編集・発行：衣川地区振興会 TEL/FAX52-3426

通巻第115号

令和8年4月23日発行



残したい風景

衣川小学校前に咲く桜。今年も美しく咲いてくれました。犬の散歩をする敏行さん（古戸）の足取りも、軽やかでした（笑）



▲愛犬のラックくん♪



3月29日（日）午後、衣川社会体育館において「ドローン操作体験講座」を開催しました。ドローンスクール岩手金ヶ崎校の菅谷代表と遠藤教授を講師に、17名が参加。ドローンを飛ばすための法規制、罰則などの基礎知識を学んだあと、2班に分かれて実技に。コントローラーの使い方に四苦八苦ししながら、上昇と下降、左右飛行と旋回、指示場所への着陸など全員が体験しました。「指示場所へ

楽しくドローン操作体験

「ドローン人口拡大のきっかけに」
十七人が楽しく空中操作に挑戦

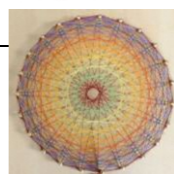
の前進飛行で遠近感がつかめず苦労した」は、ほぼ全員からの感想でした。



▲ドキドキの初飛行！

糸掛けアート講座

板に打ったピンに、色とりどりの糸をかけて、美しい幾何学模様を作りました。



3月11日（水）開催（参加9名）
講師/宮里真由美さん（水沢）

ひなまつり

「花」をテーマに開催

市内外から426人

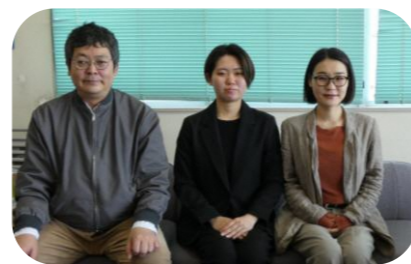


2月20日（金）から3月3日（火）まで開催した「ひなまつり」には、延べ426人が来場しま

した。第8回となる7年度の展示テーマ「花」。淡色や深く華やかな色合いの花の作品と一緒に、ひな人形や吊るし飾りなど、多くの作品が並びました。やわらかな春色に包まれた展示会場は、来場した方々の目を惹かせてくれました。今年度のテーマを何にするか、企画担当の三浦事務長は、今から頭を抱えております（笑）

地域おこし協力隊就任

今年度から3名が着任しました。地域の皆さんと今後、色々な場所でお会いする事があるかと思うので、お気軽に声をかけてあげてくださいね。よろしくお願いします。



写真左 【高山顕治さん】
写真中央 【菅 海咲さん】
写真右 【佐々木詩穂さん】

【編集後記】

今年も春の訪れとともに、新年度が始まりました。皆さんいかがお過ごしでしょうか。本年度も皆さまの声に耳を傾けながら、より身近で親しみやすい情報をお届けしていきたいと思ひます。職員一同よろしくお願い致します。（4月から広報担当/高橋百合子）

4月～6月の行事予定

開催日	内容
4/26(日)	春の健康講座(心も体も軽やかに！)
5/19(火)	おしゃべり茶の間
5/20(水)	水沢農業高校・苗の販売会
5/26(火)	里山ウォーク(徳仙丈山つつじまつり)
6/3(水)	トンボ玉づくり
6/13(土)	防災訓練
6/11(木)～18(木)	ミニ展示会(防災パネル展)



～残そう、つなごう
「歴史ある風土・自然豊かな里山・助け合う心」～
第5次衣川地区コミュニティ計画策定

衣川地区振興会の活動方針となる「第5次衣川地区コミュニティ計画(案)」が、4月12日に開催された衣川地区振興会定期総会で承認されました。

5年に一度見直しが行われるもので、今回の策定は、令和8年度から令和12年度にかけてのもので、その概要を掲載します。

【計画策定の経緯】
 平成21年4月に、衣川山村開発センターに衣川地区センターが設置され、その運営母体として「衣川地区振興会」が発足しました。

(中略)

「協働のまちづくり」を推進するため、地域に密着した、地域にふさわしいものを念頭に、これまでさまざまな事業を展開してきました。

(中略)

第5次衣川地区コミュニティ計画では、これらの状況をふまえつつ、「衣川の歴史ある風土を愛し、助け合う地域をつくっていく」というこれまでの考えを踏襲し、地域住民すべてが、自分の住む地域を見つめるという視点にたって計画を策定するものです。

(中略)

【地域の現状と課題】
 (前略)
 衣川地域は、大幅な人口減少と共に、少子高齢化の波は歯止めがかからない状況となっています。

そのことが核家族化、空き家の増加、後継者不足、農地の荒廃、鳥獣被害の増加などに結び付いています。併せて、交通弱者、買い物弱者という言葉がこの地域でも叫ばれるようになり、大きな問題として取り上げられています。

(中略)

行政の事業等削減のしわ寄せが、地区振興会に振り替えられている現状もある中で、無理なく、それでいて幅広く、衣川地区振興会の事業が展開されていくことが重要です。

【まちづくりの将来像】
 このような状況下で、住民一人ひとりが、住んでいる地域に関心をもつことが非常に大切であると考えます。そしてまた、自分たちで解決できるものは自分たちで解決し、地域で解決できないものは地域で解決していく。その活動の様々な場面に衣川地区振興会が大きな関わりを持つことが重要であり、その推進役となる



第4回役員会

人材を育成する事も非常に大切なことです。

(中略)

私たちは、岩手宮城内陸地震と東日本大震災を経験しました。その経験から15年が過ぎ、忘れかけているというのが実態です。同じような大災害は、また、必ずやってくると思っていなければなりません。さらには、新型コロナウイルスやインフルエンザの発生・対策と共に、衣川でも過去に起きていた熊による人的被害も大きな課題として浮かび上がっています。

これまでもそうだったように「地区民の命を守る」というのは、衣川地区振興

8年度スタート
総会開催・全議案可決

4月12日(日)衣川地区センターに於いて「令和8年度衣川地区振興会定期総会」を開催しました。

決議権のある理事、評議員が出席し、吉田照彦さん(古戸)を議長に議事が進められ、前ページに掲載しています第5次衣川地区コミュニティ計画(案)と令和7年度事業実績、令和8年度事業計画等が承認されました。

3つの会計で幅広い事業を展開
 衣川地区振興会では「指定管理」「地域運営交付金

「協働のまちづくり交付金」の3つの会計により年間の事業を展開しています。そのほとんどが奥州市からの交付金や補助金によって事業が行われ、7年度の予算総額は、1,835万円となっています。

「指定管理」は、衣川山村開発センターの中に衣川地区センターと衣川山村開発センターの2つの事務機能を置き、衣川地区振興会がその指定管理を受けているもので、管理下の全額が人件費と管理にかかる経費です。

「地域運営交付金」「協働のまちづくり交付金」は、地域づくりのための交付金で、敬老会補助金や社会福祉補助金を含めたお金で事業が展開されます。防災訓練、振興会まつり、生涯学習講座、リクエスト講座、ミニ展示会、イルミネーション事業、小学校教育振興助成、行政区対象の地域活動やサロン等への助成を計画し、事業の細部について、各専門部会によって検討が加えられます。



会の最重要課題です。命の大切さを第一に置きながら、今を生きる私たちが手をつなぎ、助け合い、そしてまた、衣川の将来を担う子供たちにも、しっかりと目を向けることが大切です。

先輩たちが手をつないできた衣川の宝「自然、歴史、人情、文化」等を守りながら、しっかりと後世に継承していくものです。

【まちづくりの目標】

- ①安心・安全のまちづくり
- ・防火・防災に強いまちづくりの推進
- ・地域福祉の推進
- ・介護・保険・医療活動の理解と支援
- ・環境美化、環境保全、リサイクル活動の推進

- ②一体感を醸成するまちづくり
- ・敬老会祝いの実施
- ・振興会まつり、イベントの開催
- ・奥州衣川まつりへの参加
- ・趣味、ニュースポーツ、レクリエーション活動の開催、推進
- ③魅力あるまちづくり
- ・地域の歴史、文化、伝統芸能、伝統行事の保存活動の推進
- ・学校教育への支援、連携
- ・生涯学習の推進
- ・地産地消活動への支援と推進
- ④人づくりをすすめるまちづくり
- ・各種指導者養成等への派遣支援
- ・地域振興等先進地研修の開催

- ⑤コミュニティ活動が活発なまちづくり
- ・地区公民館等維持管理、活動への支援
- ・岩手県、奥州市、衣川地域へのまちづくりへの参加推進
- ・政策提言、地区要望の強化(行政機関、議会に対する要望、陳情等)
- ・「振興会だより」「お知らせ版」等の定期発行と市ホームページへの掲載

【目標に掲げる主な事業】
 ※この項目に掲載している具体的な事業内容は、多岐に渡りますので、この紙面では省略します。

